

外部精度管理事業

# チフス菌・パラチフスA菌

細菌第一部 森田昌知

# 腸チフス・パラチフス

チフス菌・パラチフスA菌の感染によって生じる

患者や保菌者の糞便で汚染された食物や水が疾患を媒介

通常7～14日の潜伏期間を経て、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感等の症状を発症

世界の年間患者数：腸チフスは2690万人、パラチフスは540万人

衛生水準の低い開発途上国で蔓延

先進国における発生の多くは流行地域からの輸入事例

# 腸チフス・パラチフス

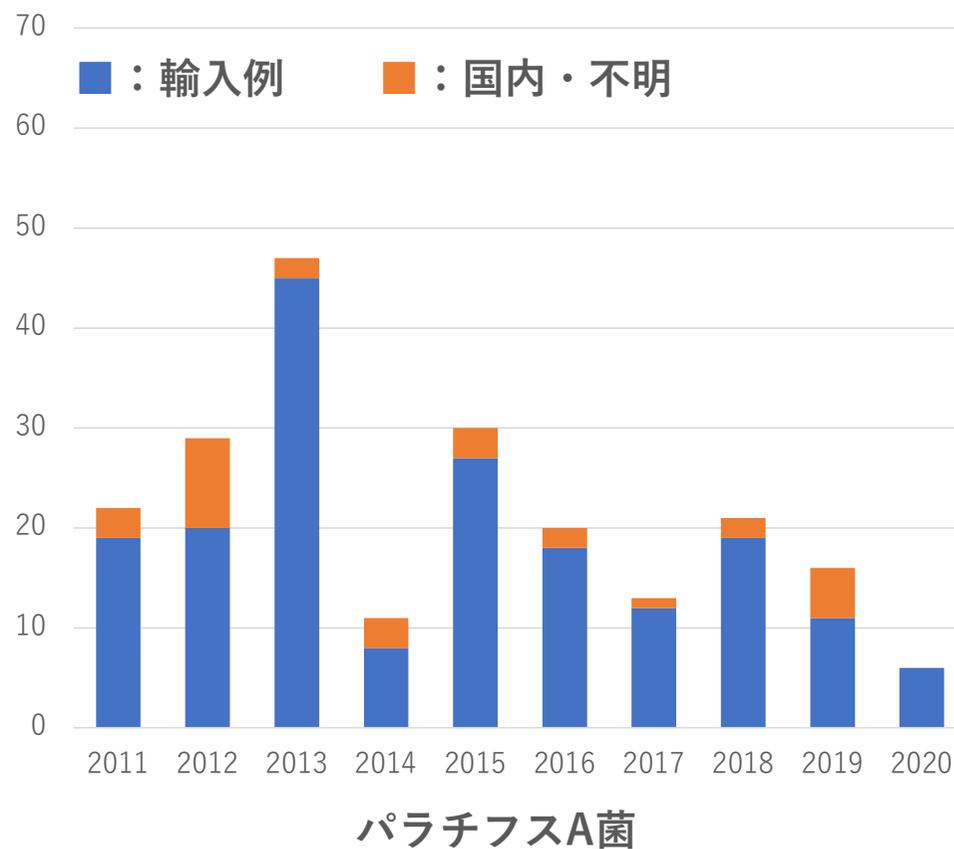
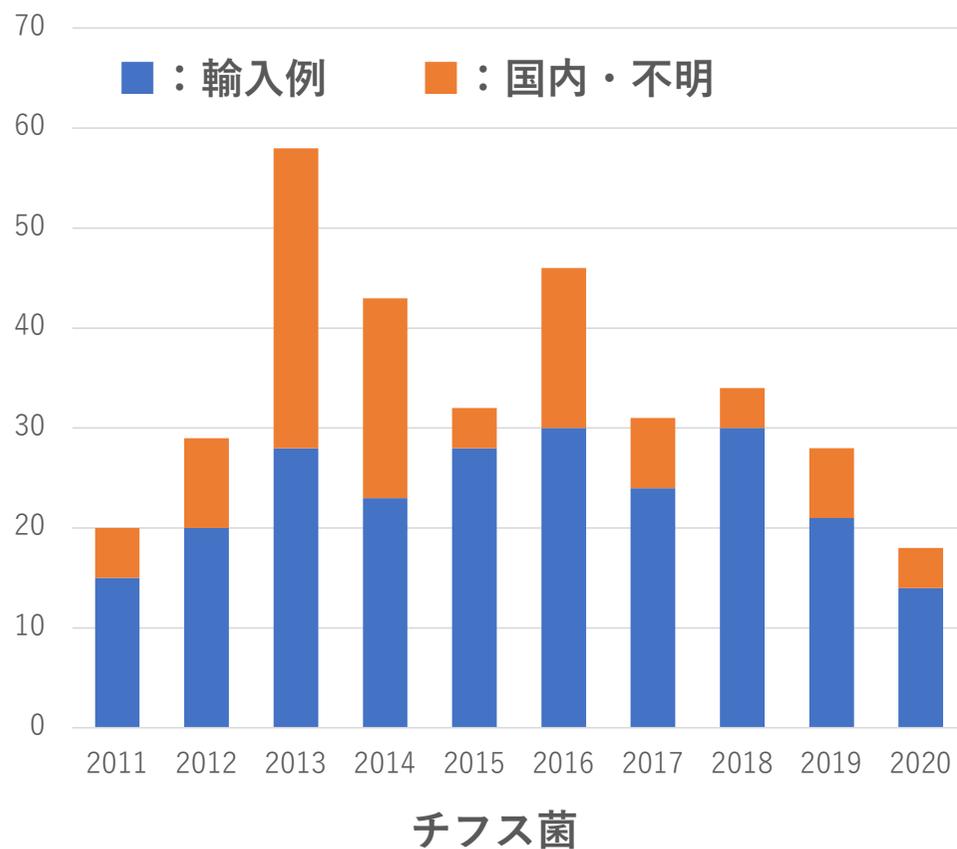
## 感染症法

- 平成11年4月施行：二類感染症
- 平成19年4月改正：三類感染症
- 特定四種病原体

## 昭和41年衛発第788号

- 腸チフス対策の推進について：ファージ型別のため菌株送付

# 送付菌株数の推移



# チフス菌・パラチフスA菌

- *Salmonella enterica* subsp. *enterica*
  - 血清型Typhi
  - 血清型Paratyphi A

一般のサルモネラとは異なる点

宿主特異性から感染源がヒトに限定

同定のための生化学的性状

# 外部精度管理事業

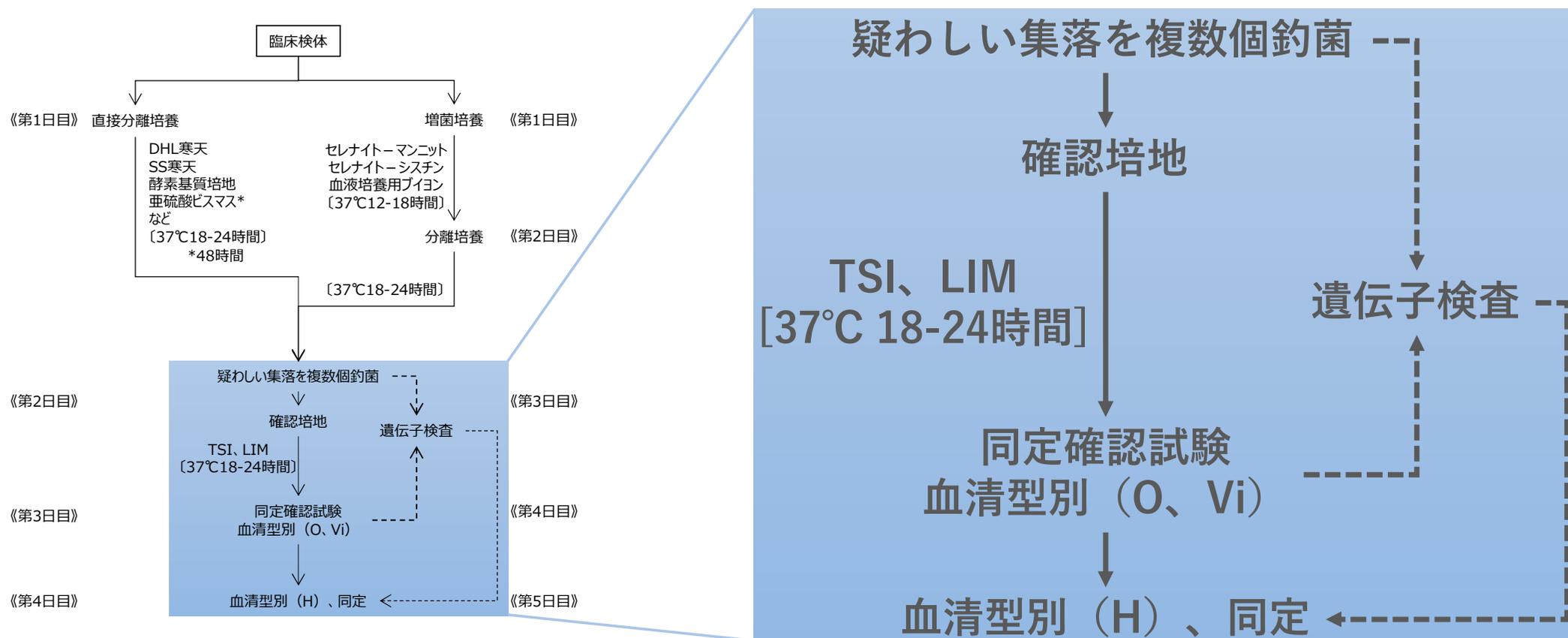
## チフス菌・パラチフスA菌の同定

参加56施設に3検体送付し、各検体に対して選択肢から回答

- ・チフス菌
- ・パラチフスA菌
- ・その他



# 一般的な同定手順



(病原体検出マニュアル：チフス菌・パラチフスA菌)

# 外部精度管理事業

## 回答結果の集計

	チフス菌	パラチフスA菌	その他
正答施設数	54	54	56
実施施設数	55*	56	56

\* 1 施設は検体記号の誤記入で評価対象外

## 同定結果の根拠

	チフス菌	パラチフスA菌	その他
生化学的性状試験	54	55	55
血清学的試験	56	56	56
遺伝子試験	28	26	23

## まとめ

腸チフス、パラチフスはそれぞれチフス菌、パラチフスA菌による全身性感染症である

疾患：全数報告

病原体：ファージ型別のため送付

日本の事例の多くは輸入事例である

しかしながら、国内の食中毒事例の原因菌として報告されたこともある

精度管理事業として両菌の同定を実施した

成績は概ね良好であった

問い合わせ事項に対して対応した